

令和4年度 学校経営方針

久御山町立佐山小学校

第2期京都府教育振興プランとそれに基づく京都府教育委員会「学校教育の重点」及び久御山町教育委員会「指導の重点」に置いて掲げられた理念や方針を踏まえた具体的な取組をととして、「目指す人間像」（めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会を幸福な人生を作り出せる人）と「はぐくみたい力」（主体的に学び考える力／多様な人となつながら力／新たな価値を生み出す力）を備えた次世代を担う児童の育成を目指して教育活動を推進する。

また、久御山町教育プログラムに掲げられた「人生を開拓しようとする子の育成（たくましくしなやかに生き抜く力の育成）」のために、「久御山学園」における園小中一貫教育を基盤として、学校運営協議会の活動を中心とした地域の力の結集により「学校力」を高め、学校と地域が協働して子ども達を育てていく環境づくりを推進する。

さらに、京都府小学校教育研究会情報教育部の研究協力校として3年間の指定を受け、社会の変化に対応できる子どもの育成を図るべく情報教育を推進する。

1 学校教育目標

「自分のよさを生かしながら、ひとりだちできる子どもの育成」

2 研究主題

「主体的に考え情報を活用できる子の育成」～課題意識を高めるための授業実践～

3 基本方針・・・「主体的に考え、創造し、行動できる子」

- (1) 児童の学習意欲を高め、学力向上を目指すカリキュラムマネジメントによる効果的な教育課程の構築を行う。また、基礎学力の充実・向上及び授業改善や学習環境の改善を行い、さらに園小中連携を円滑で効果的な接続を図れるようにする。
- (2) 校内支援委員会を核として教育相談部や生徒指導部等の各分掌の有機的な連携による児童理解と的確な支援を図り、さらに、児童の人権意識の高揚と安全を確保するための取組を進める。そのための計画的な研修や情報の共有化、組織的な対応等に関する教師力の向上を図る。
- (3) 学校運営協議会やPTAを中心とした地域や保護者との連携を強化し、学校を核とした地域一体型の豊かな教育活動を展開するとともに、地域・学校における児童の安全を確保する。

4 学力向上プログラム（別紙）

5 具体的な取組

(1) 学力充実・向上

ア 言語力の育成と向上に向けて、読解力や表現力を高めるための取組を進めたり、話し合い活動や交流を通じて、コミュニケーション力高められるようにする。

また、「主体的に考える力」を伸ばすために、効果的なカリキュラムマネジメントによる教育課程の構築を行い、「生活科」や「総合的な学習の時間」で学んだ力を活用して、「生きる力」に結ぶことで質の高い学力へと繋げられるようにする。

- イ 「久御山学園教育研究会学力向上部」の研究成果を基盤として児童の興味関心を高め、主体的、対話的、深い学びを追求した授業展開し、自分の学びを振り返る学習スタンダードに則った授業改善を図るようにする。
- ウ 「学びの時間」を基礎学力充実の時間とし、学習の基盤作りに努める。
- エ 児童の意識や関心を的確に分析し、学力テスト質問紙等で学力との関連性を分析し、児童の学習意欲向上を図るための取組を進める。
- オ 認知能力・非認知能力の「学びの積み上げ」を意識して園小連携の充実を図る。こども園の保育教育内容等の理解と非認知能力の育成を中心とした連携を図り、さらに、中学校へ効果的、効率的な接続を行う。

(2) 組織的な学校運営と教師力の向上（OJT）

- ア 各部会（教育相談部、生徒指導部、健康安全教育部、特別支援教育部 等）と校務分掌の組織化と機能化を図れるようにする。
校内支援委員会を核として、教育相談部や生徒指導部が中心にチーム会議・ケース会議の設定や各学年・ブロック会議の定例化により情報の周知と共有化を図れるようにする。
また、福祉関係を含む外部機関等との連携を含む迅速な支援を進めるとともに教職員相互の学び合いの機会を設定する。
- イ 全ての教育活動に生徒指導の3機能を視点としたねらいを位置付け、ねらいを達成するための取組を計画し、その成果と課題を検証することでより良い教育成果を生み出す取組を積み重ねることで教師力の向上を図る。
- ウ 人権教育・特別支援教育・安全教育・情報教育など教職員の基本研修を計画的に行い、人権意識の高揚と児童理解、学級や学年経営の指導力を高める。
- エ 通級指導教室を有効活用し、児童の支援の在り方を共有する。
また、見通しのある学習計画により、通級児童の時間を確保する。
- オ 教職員の危機管理意識を高められるようにするために、事故の未然防止を常に意識しながら、児童が安心安全に過ごせような視点を持ち対応していけるようにする。
また、危機的なことが生じた場合は、すぐに対応できるような体制を確立しておくようにする。

(3) 保護者・地域との連携による豊かな教育活動と安心・安全な環境づくり

- ア 学校・家庭・地域の方々との共通理解(方向性)に基づく指導や情報発信により、学校への信頼を高め、教育効果を高める。
- イ 学校運営協議会やPTAをはじめとする各種学校関係団体、教育委員会、町内企業等との連携強化による児童理解、豊かな体験活動、安心・安全な環境づくりを進める。

6 主な領域ごとの重点目標

領 域	重 点 目 標
組織・運営	・ 学校力（組織力）を高める体制づくりを進める。課題の共有化と解決に向けての共通認識を図り、意識高める。随時RPDCAサイクルによる方針や方向性の確認を行い軌道修正する。 ・ 教育目標や重点課題の具現化を目指し、生徒指導の3機能や人権意識を持ちながら、ねらいを達成させるための教育活動を推進する。 ・ 児童の自己肯定感を高め、学力向上に繋ぐとともに特別支援教育の

	視点を取り入れた学級経営を進めることで児童のひとりだちに向けた学校生活を支援する。
研究・研修	・重点研究（情報教育）をとおして、授業力をつけるために授業改善や創意工夫を図ることを重視していく。 ・久御山学園の研究を基盤とした取組の充実を図る。 ・若手教職員の世代が多くなり、最新や多方面に亘る研修に取り組むようにする。 ・こども園や中学校との連携を図り、円滑な接続と教員の交流に繋ぐ。
信頼を高める特色ある学校づくりの推進	・学校運営協議会を核とした地域連携の中で、相互理解を深め、地域や保護者の願いに応える「信頼ある学校づくり」を進める。 ・教育活動の中に地域の教育資源を有効に活用し、豊かな体験活動を充実することで、学習効果を高める。
教育課程の編成と実施	・RPDCAサイクルにより教育活動を進行管理し教育の成果を高める。 ・学校図書館司書との連携により言語力の向上に向けて、読書活動の充実を図る。 ・個々の児童理解に基づく、個別最適化の指導を図る。 ・児童が「主体的に考える」ようになる指導を心がけ、創意工夫された教育課程(カリキュラムマネジメント)による効果ある教育活動を実施する。

7 その他